

京都の歴史と文化 映像ライブラリー

— 「伝統行事・芸能記録映画」事業の新たなステージ —

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課
主任・文化財保護技師 福持 昌之

京都市の文化財映画製作

京都市では、昭和48年度(1973)に16mmカラーフィルムによる映画「久多の花笠踊」を製作しました。この映画の冒頭には、「京都には長い歴史のなかでうけつがれてきたすぐれた伝統芸能が数多くあります。京都の最北端久多に古くから伝わる花笠踊もその一つであります。近年、過疎化による後継者難などにより保存が年々困難になっております。本映画はこのような状況にある「久多花笠踊」を長く後世に伝えるため制作したものであります。」とあるように、およそ50年前においても、現在と同じ課題が指摘されていたことがわかります。

同年10月、京都市は日本新薬株式会社から文化事業として製作した記録映画「祇園祭」の寄付を受けており、12月に完成した「久多の花笠踊」と共に、それらのフィルムの一般市民への貸出を始めました。

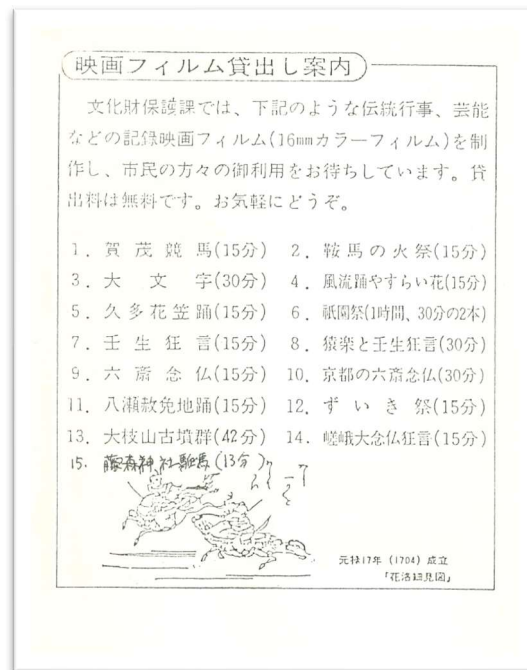
京都市直営による「伝統行事・芸能記録映画」の製作はその後、およそ1年に1作品のペースで行われ、平成15年度(2003)までに25作品が完成しています。これらの映画は、平成6年度(1994)までは16mmフィルム作品でしたが、製作休止期間を挟んで平成11年度(1999)以降はビデオテープ方式が採用されています。16mmフィルム作品もテレシネ作業を実施し、VHSビデオやDVDビデオでの貸出に対応してきましたが、平成21年度(2009)以降は完全にDVDビデオ(作品によってはBlu-ray)での貸出となりました。

この「伝統行事・芸能記録映画」事業は、当初より京都市の自主製作の作品だけでなく、寄贈作品も含まれていたことから、京都市文化財保護課が製作に協力した作品なども多く含まれており、作品数は令和4年(2022)現在、82作品にのぼります。これらのご利用は、個人視聴、学校の授業、企業研修、公開上映会等、多岐にわたって好評をいただいております。

文化財情報の発信方法の変化へ対応

近年、京都市文化財保護課では、報告書やパンフレットなど印刷物について、「京都の文化遺産」ウェブサイトで公開しており、ウェブでの公開を前提として近年に製作した動画も閲覧できるようにしています。「伝統行事・芸能記録映画」についても、皆様の利便性や、文化財保護及び普及啓発の目的から、ウェブサイトでの公開の必要性が痛感しておりましたが、出版物よりも複雑な権利処理が必要で、そのための予算化も必要でした。

ちょうど、令和3年度に文化庁が文化財映像の権利処理を補助対象とする補助事業の採択を受けることができたため、公益財団法人京都市文化観光資源保護財団、京都市歴史資料館そして京都市文化財保護課の3機関が連携して、ウェブでの公開に取り組むことになりました。



昭和60年(1985)頃のフィルム貸出案内

映像のジャンルと閲覧方法

京都市が製作した「風流踊やすらい花 やすらい踊」（1976）、「ずいき祭」（1978）、「京都の六斎念仏」（1979）、「八瀬赦免地踊」（1981）の冒頭には、「京都市では、京都の貴重な文化財をまもり後世に継承するために財団法人京都市文化観光資源保護財団を設けて、広く国民の皆様から寄附金をいただき、これを基金として保護事業をおこなっております。皆様も、この国民運動にご協力下さい。」と表示があります。このように、京都市と京都市文化観光資源保護財団では、映像製作を介した連携が早くから行われていました。今回のウェブでの公開では、京都市文化観光資源保護財団が主催し、平成23年（2011）2月の第41回まで続いた民俗芸能公演「京の郷土芸能まつり」の貴重な記録映像（うち第18～41回）と、京都市歴史資料館が製作し館内上映をしてきた京都の歴史を紹介する講座ビデオも対象としています。そこで「京都の歴史と文化」というキーワードを「映像ライブラリー」に冠することになりました。

この「映像ライブラリー」閲覧できる作品は、①「京都の郷土芸能まつり」公演、②まつりと行事・習俗、③民俗芸能・伝統芸能、④神社仏閣・史跡・有形民俗文化財、⑤京の“れきし”、⑥京の“むかしのニュース”の6つのジャンルに分類しています。また、主に②③については、開催月から探す方法を用意し、英語対応の作品も、まとめて探すことができるよう工夫しています。

この映像ライブラリーの理念

私達が目指した「映像ライブラリー」は、もう販売していない昔の本を図書館で閲覧できるように、映像も閲覧可能にしたいということでした。それで、アーカイブでなく、ライブラリーなのです。

実は、図書館は本だけでなく、映像、音声資料なども取り扱いの対象としているはずなのですが、古いフィルムやビデオテープの映写・再生機材も生産中止となり、もはや閲覧が難しい状況です。「伝統行事・芸能記録映画」のDVDビデオの貸出においても、近年はパソコンでの視聴を希望される人も多く、DVDビデオに対応していないパソコンで再生できなかったという声も耳にしていました。ウェブ上でライブラリーを開設することは、時代の流れに沿ったものと言えます。

一方で、ウェブ動画の多くは、製作者・制作者、製作時期などが明示されておらず、その結果、繰り返しの鑑賞に適さないものや、資料として信頼に足らないものが多くあります。そこで、この「映像ライブラリー」では、著作権者（著作財産権、著作者人格権）、製作年、オリジナルのメディアの状況などを調査し、私たちの可能な範囲で最良のコンディションを保つ媒体からデジタル化をするとともに、作品のクレジット情報を整理して明示するよう心掛けました。著作権者の権利を保障するとともに、作品の信頼性を担保したいからです。したがって、この「映像ライブラリー」で閲覧できる作品群は、著作権者との権利処理において著作権の移動はしておりません。「ウェブで無料公開すること」に限って、著作権者から無償で承認をいただいております。この点についても、図書館と同様の理念で運用しておりますので、御利用にあたりましては、御理解と御協力をお願いいたします。

付記

映像ライブラリー開設に際し、御協力いただきました関係各位の皆様にお礼を申し上げます。また、私達の調査では判明せず、御連絡さしあげられなかった著作権者がおられましたら、御一報いただけますと助かります。

令和4年（2022）2月19日（土）14:00～アスニー京都学講座（於 京都アスニー）
「映像で見る京都のまつり 京都の歴史と文化 映像ライブラリー」配布資料